



国際ロータリー第2530地区東北第一区
福島南ロータリークラブ

■会 長/廣澤 俊樹 ■幹 事/大野 順道

第1回例会

平成20年7月2日(水) サンパレス福島

■会員/67名 ■出席/55名 ■出席率/82.1%
■メークアップ/12名 ■修正率/100%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 新入会員入会式
- 3 新入会員の紹介と挨拶
- 4 ロータリーソング(君が代・奉仕の理想)
- 5 4つのテスト
- 6 来訪者紹介と会長挨拶
- 7 臨時クラブ総会
- 8 スマイリング前年度報告
- 9 出席委員会表彰
- 10 会長杯の贈呈
- 11 各委員会の報告(スマイル・財団・出席)
- 12 閉会点鐘

会長挨拶

廣澤 俊樹会長



今年度のRI会長の李東建氏は、2008～2009年度のRIテーマを「Make Dreams Real」日本語で(夢をかたちに)とされ、その夢として「世界の子供の死亡率の低下の実現」を掲げておられます。私達がこうして幸せな時を過ごしている間にも、地球上では毎日毎日、何らかの原因で3万人もの、5歳未満の子供たちが、命を落としているのです。その内、水系汚染の疾病で死亡する子どもの数は、一日当たり6000人。平和な日本に住む私達には、想像すらできない数です。安全な水があれば、この数を劇的に減らすことができ、そしてそ

の子供達は、健全な発育を遂げ、ポリオにもかからず、読み書きを覚え、家庭を築き、そして育児を営むことができるのです。ですからロータリーは、1.水対策 2.保健と飢餓救済 3.識字率向上と関連付けた3つを継続事業としました。

次に地区としては、味戸ガバナーが「温故知新」 「One for All, All for One」をテーマとし、前述の三つに加え、四大奉仕、新世代、財団、米山の積極的な活動、そして、親睦の強化を図ることを目標としました。私たちは、このテーマにそって一年間活動をします。

入会の動機は様々なれど、せつかく短い人生の中で、この場・この時に出会った仲間同士。この出会いを大事にしなければいけないと思うのです。ロータリーは「一つの人生の哲学であり、利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人の為に奉仕したい、という感情の間に、常に存在する矛盾を、和らげようとするものである」とロータリー定款にあります。

縁あって私達はここに集まりました。年齢とヒエラルキーを超え、個人の幸せである友情を育みながら、この一年おおいに奉仕をし、おおいに親睦を深めましょう。この一年間よろしくお願ひいたします。

本日のお客様



福島21RC会長 三瓶義明様 幹事 寺島英之様 パスト会長 宗像守敏様・佐々木廣充様 直前幹事本田勝秋様 福島西RCパスト会長 金子與志郎様

新入会員入会式



金子親房会員 高萩秀則会員
当クラブへの仲間入りです。
これから宜しくお願い致します。

地区友情交換委員会 委員長 斎藤 浩

ロータリー友情交換は、1988年に採択されたRIのプログラムで、国境を越えた個人対個人の交流を通じて国際理解、親善、平和を推進する為に、ロータリアンとその家族を相互に訪問し合い、ホームステイを行なうものであります。第一義的にはロータリアンが自分のためにEnjoy Rotaryすることです。皆様方の積極的な参加を期待いたします。

2007～2008年度 出席100%表彰

- 28年 100% 斎藤浩 武藤正隆
- 26年 100% 安齋常三郎
- 23年 100% 鈴木恒昭
- 21年 100% 大橋廣治 穴戸英男
- 20年 100% 富田健三郎 博多義雄
- 17年 100% 穴戸清和
- 16年 100% 斎藤ミヨ
- 12年 100% 金子與宏 小坂和也 三浦善治
- 10年 100% 大野順道
- 9年 100% 佐藤誠 菅原節子 野地利雄 渡辺勇
- 8年 100% 植木洋司 廣澤俊樹
- 7年 100% 黒羽好夫 鈴木恵美子 林克重
- 5年 100% 喜古勝弘 斎藤実 佐久間功
鈴木光一 横山りつ子
- 4年 100% 伊藤弘子 紺野仁昭 高橋勇雄
高橋和之 福田順一 本田光男
- 3年 100% 鈴木武男
- 2年 100% 川村哲也
- 1年 100% 大堀義之 丹治洋子

ホームクラブ100%出席者名

植木 洋司 林 克重



ご栄転される渡辺敬光会員
これからのご活躍をお祈り致します。



鈴木恒昭ゴルフ部長へ
会長杯の贈呈

今月・来月のプログラム

- 7月16日(水) クラブ協議会 委員会活動計画発表
- 7月23日(水) クラブ協議会 委員会活動計画発表
- 7月30日(水) 家族納涼パーティ
- 8月6日(水)～8日(金) IAC年次大会

クラブ会報委員、はじめての経験ですが、今年一年間わかり易い紙面づくりに精一杯活動して参ります。

編集担当 伊藤 弘子

